

大使館便り

第 162 号 平成 28 年 9 月 5 日
在ポルトガル日本国大使館

1. 東博史大使からのメッセージ

本格的な夏の暑さも和らぎ朝夕はめっきり涼しくなってきましたが、皆様におかれましては、御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

今月号では、「豊和トラミコ社ヴィアナ・ド・カステロ工場の起工式へのコスタ首相出「マルケス企画・インフラ大臣等の訪日」、「河村CPLP議員連盟会長のCPLP本部訪問」等について御紹介したく存じます。

(1) 豊和トラミコ社ヴィアナ・ド・カステロ工場の起工式にコスタ首相出席

7月15日、私は、ヴィアナ・ド・カステロ市に新しく建設される豊和トラミコ社(豊和繊維工業株式会社の仏現地法人)の自動車内装部品生産工場の起工式に出席しました。

同起工式にはアントニオ・コスタ首相が出席され、5月6日にブラガ市にオープンした富士通のグローバルデリバリーセンターの開所式への出席に続き、この2か月の短い間に日本企業関連行事への同首相の2度目の出席となりました。同首相は、今次起工式においても、「豊和トラミコ社の進出は、雇用の創出をはじめ地元経済の活性化に貢献するものである。ポルトガルは欧州進出を目指す外国企業にとってのゲートウェイであり、特に、ヴィアナ・ド・カステロ市を含む当国北部は、自動車産業を始めとした様々な産業が集積している重要地域であり、ポルトガルの国際化を更に進展させ、外国企業による投資を期待したい」と挨拶されました。

また、私に対しても、「最近の日本企業による2件の新規投資は、ポルトガルに新たな雇用を創出し、日本の技術導入の契機となるものであり、今後も日本企業による新規投資を期待している」との示唆がありました。これに対し、私からは、「7月11日から、ペドロ・マルケス企画・インフラ大臣、ジョルジ・コスタ・オリヴェイラ外務省国際化担当副大臣等が訪日されるが、この訪日を契機として、日本とポルトガルの貿易・投資関係の一層の拡大につなげて行きたいと考えている」旨述べておきました。

(2) マルケス企画・インフラ大臣等の訪日

7月11日の週、マルケス企画・インフラ大臣は、ジョルジ・コスタ・オリヴェイラ外務省国際化担当副大臣及びフラスキーリョAICEP長官等とともに訪日しました。今次訪日は、昨年11月にアントニオ・コスタ新政権が発足して初めてのポルトガルの閣僚の訪日であり、日本との貿易・投資・観光促進、ポルトガルの鉄道整備計画をはじめとするインフラ整備に日本企業の参画を図ることを目指して行われました。

同大臣一行の帰国後、私は、マルケス大臣、オリヴェイラ外務副大臣等から訪日の成果を伺う

とともに、今後のフォローアップについて意見交換しましたが、同大臣一行から伺った訪日の概要及び今後の要望事項は概ね次のとおりでした。

大臣一行は、宮内秀樹国土交通大臣政務官、山田美樹・外務大臣政務官、北村経済産業大臣政務官(いずれも当時)、谷垣禎一・ポルトガル友好議連会長等と会談したほか、日刊工業新聞主催のワークショップに参加するとともに、日本企業との個別面談を実施しました。

山田外務大臣政務官との会談では、両国の歴史的な関係や両国が基本的価値を共有する重要なパートナーであることを確認し、この2年間の両国首相の相互訪問の成果を踏まえ、新政権下においても関係を拡大し、更なる貿易投資促進を図ることについて意見の一致を見ました。

宮内国交省大臣政務官とは、今後の両国間の航空、鉄道、観光等の分野における関係について意見交換が行われ、積極的に協力していく旨が確認されました。

北村経産大臣政務官との間でも、両国間の貿易・投資促進の方途について非常に前向き且つ有益な意見交換を行い、特にJETRO-AICEP間の協力覚書にもとづく協力の深化について具体的な方策が話し合われました。

日刊工業新聞グループ主催のセミナーでは、大臣一行から、インフラ分野、自動車関連産業、医療・健康分野等ライフサイエンス、IT、再生可能エネルギー及びElectrical Mobilityについてプレゼンが行われました。参加した日本企業から前向きな反応が得られたそうです。また、AICEP日本事務所を強化し、ポルトガルへの投資促進アドバイザーを1-2名配置するので、是非ポルトガルへの投資を促進頂きたいと訴えたそうです。

全日本空輸株式会社(ANA)との会合では、大臣一行からポルトガルの優位性を説明した上で、ポルトガルは、アフリカやブラジルをはじめとする南米へのハブにもなり得、東京オリンピックの際に直行便の就航に必要な需要の創出を生む良い契機になるのではないかと説明されたとのことでした。

ポルトガルの鉄道整備計画に関連して、欧州における鉄道事業に日本企業が参入することは容易ではないとの話もあったものの、前向きな反応も得られたようです。今後、パナマ運河の拡張によりシーネス港が欧州におけるハブ港としての重要性も増すことから、ポルトガル政府は鉄道整備事業を最優先事業として捉えており、日本企業からパートナー企業への技術提携を期待しているとのことでした。

ポルトガルはリチウムの埋蔵量が豊富であり、蓄電池の生産についても可能性を有する中、電気自動車が増大する日本へのポルトガル関係者の訪問を近々予定しているとのことでした。また、ポルトガルにおける水産関連の新規投資にも期待を寄せていました。フランス企業がカキ養殖を、ベルギー企業がムール貝の養殖を始めているように、日本食レストランの人気の高まる中、日本市場向けのみならず欧州市場も視野に入れて検討してほしいとのことでした。

観光においても、最近日本のテレビや雑誌でポルトガルが多く紹介されていることを承知されており、日本人旅行者を多く見かけるようになった中で、更に増えれば、直行便就航の実現性も高まると、今後とも日本人旅行者の増加を期待していました。

(3) 河村建夫CPLP推進議員連盟会長のCPLP本部訪問
(衆議院欧州各国議会制度等調査議員団(議院運営委員会公式派遣議員団)の来訪)

7月18日－20日、衆議院議員運営委員会議員団がポルトガルを訪問し、ロドリゲス議会議長表敬、議会内視察を行いました。この表敬等には、ポ・日友好議員連盟の議員も同席し両国の議員交流の良い機会となりました。

特に、同議員団は、団長の河村建夫議員（ポルトガル語圏諸国共同体（CPLP）の会長）とともにCPLP本部を訪問しました。我が国は、2014年7月に開催されたCPLPサミットでオブザーバー加盟が認められましたが、2015年9月24日に日本国内にCPLP推進議員連盟が設立されました。今回は、同議員連盟設立後初めての同議連会長のCPLP本部訪問となりました。CPLP本部では、ムラルジCPLP事務総長と会談し、我が国のオブザーバー加盟の際の同事務総長の尽力に謝意を表するとともに、今後の協力の可能性について話し合われました。8月末にナイロビでTICADV Iの開催が予定されている等をふまえ、アンゴラ、モザンビーク等CPLPのアフリカ加盟諸国での経済協力の推進やポルトガル語普及を始めとする文化・教育面の協力関係を今後も強化することで意見の一致を見ました。

本年6月23日に実施された英国の国民投票により、英国のEU離脱が決定され、世界経済への影響が心配されています。また、ポルトガルの過剰財政赤字の是正については、罰金制裁を許さず、過剰財政赤字の是正期限を2016年に延期する等の欧州委員会の勧告が、8月8日のEU財政理事会（エコフィン）で承認されました。

この勧告に基づき、ポルトガルとしては、今後改革努力と安定成長協定の規定を履行するとともに10月15日までに財政赤字是正に向けた効果的な措置の実施及びその報告を行う必要があります。このような状況の中にあっても、本年に入ってから日本企業のポルトガルへの新規投資、進出は継続しています。

4月には、FANUC Iberia社のヴィラ・ド・コンデのショールーム、サービスセンター開設、5月には、富士通グローバルデリバリー・ブラガセンターのオープン、7月には、豊和トラミコ社ヴィアナ・ド・カステロ工場起工式が行われたとは、これまでに皆様に御紹介してきたところですが、今般、宝酒造の子会社であるフーデックス社（仏）がポルトガル最大手の日本食材卸会社ケータフーズの発行済み株式の100パーセント取得を決議した旨報道されました。また、7月29日には、丸紅等によるポルトガルのガス配給事業への参入が報じられています。これにより、丸紅は、ポルトガルでの発電事業及び上下水道事業に加えてガス配給事業への参入を行うこととなります。

コスタ政権も日本企業のポルトガルへの投資促進に熱心であり、日本を重視する姿勢を示しています。このことは、上記のとおり、この2か月の間に、コスタ首相自身が日本企業関連行事に2度出席されたことにも表れています。また、マルセロ・レベロ・デ・ソウザ大統領が「富士通がブラガにポルトガルで2か所目となるグローバルデリバリーセンターを増設して特に優秀な若い人材に就業機会をあたえていることを評価している」と私に述べられたことにも表れています。

更に、7月の上記議員団の訪問に続いて8月には、「衆議院欧州等政治経済事情調査議員団」のポルトガル訪問があり、日・ポルトガル両国関係の促進にとって有益な訪問となりました。

このように、最近においても、ポルトガルの新政権のもとでも両国間の関係は着実に進展しており、今後とも両国間関係強化に向けて、引き続き皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

9月に入り、夏季休暇も明けますが、皆様におかれましては、御自愛の上、御活躍されますようお祈り申し上げます。

2. 政治・経済関係

(1) 次期国連事務総長選、グテーレス元首相引き続き模擬投票で首位

8月5日および8月29日、国連安全保障理事会(安保理)は、今年末に任期を終える潘基文(バンキムン)事務総長の後任候補を絞り込むため、第2回、第3回模擬投票が行われました。当地報道等によりますと、安保理メンバー15か国が投票し、7月21日の第1回模擬投票で支持12票を集めて首位だったポルトガルのグテーレス候補(元首相、前国連難民高等弁務官)が、第2回、第3回ともに支持11票を集めて首位を維持しました。

サントス・シルヴァ外相は、模擬投票の結果を非常にポジティブに評価しており、「グテーレス候補の立場が投票を重ねるたびに強固となっており、現状において次期国連事務総長として最良の人物であることを示している。」とたたえました。安保理では今後も模擬投票が行われ、秋までに候補者が絞り込まれる見込みです。

(2) 大規模森林火災の発生、政府は対応に尽力

8月8日以降、高温・乾燥が続いたポルトガルの中・北部やマデイラ諸島の主要都市フンシャルを中心に森林火災が急速に広がり、死者や多数の避難者が出ました。

政府はEU市民保護メカニズム(注:EU域内外で発生した重大な自然災害等にEU加盟国が支援を行う制度)の発動を要請し、スペインやイタリアに加え、隣国のモロッコ、さらには2国間の友好協力協定を締結するロシアからも消防用飛行艇が応援に駆け付け、消火活動を展開しました。

特にフンシャル市では、強風で市内各地に火災が広がり、ピーク時には市内上空に大きな煙が立ち込めました。同市だけで死者は4名に上り、住民80人以上が入院、200人以上が避難したと伝えられています。

欧州森林火災情報システムによると、今回の大規模森林火災を含めた今年のポルトガル国内の焼失面積は、8月26日現在で2008～15年の同日時点平均の3倍弱となる約12万4千ヘクタールに達しました。今年のEU全域の焼失面積のうち、ポルトガルだけで50%以上を占めているとのこと。

政府は被害状況の把握を進めており、被災した農家や林業従事者に対する補償や森林の再生を検討するとともに、火災発生の予防に向けた投資を強化する方針と伝えられています。

(3) EU財相理事会による欧州委員会のポルトガル財政に対する勧告案の承認

8月8日、EU財相理事会(ECOFIN)は、ポルトガルに罰金制裁を科さずに過剰財政赤字の是正(対GDP比3%以下)期限を2015年から2016年に延長する旨等の欧州委員会による勧告案(7月27日付)を承認しました。ただし、本勧告案の承認に際し、ポルトガル政府は本年10月15日までに追加の財政緊縮策を実施し、2016年の財政赤字を対GDP比2.5%までに削減することが求められています。

(4) 2016年第2四半期の雇用統計

8月10日、ポルトガル国立統計院(INE)は、2016年第2四半期の雇用統計について、失業率が10.8%(前期比1.6ポイント減、前年同期比1.1ポイント減)、失業者数が5万9300人、就業者数が460万2500人であると発表しました。

(5) 2016年第2四半期のGDP成長率

8月12日、ポルトガル国立統計院(INE)は、2016年第2四半期のGDP成長率を前期比+0.2%、前年同期比+0.8%であると発表しました。

3. 広報・文化関係

【イベント】

(1) 第10回リスボン国際ホラー映画祭(MOTELx)

国際交流基金助成事業として、以下のとおり「第10回リスボン国際ホラー映画祭」(MOTELx)が開催されます。同映画祭プログラム内にて、下記の日本人監督によるホラー映画が上映される予定です。詳細は、下記までお問い合わせください。

日時：9月6日(火)～11日(日)

会場・住所：Cinema São Jorge (Av. da Liberdade 175, 1250-141 Lisboa) 及び Teatro Tivoli BBVA (Av. da Liberdade 182 A, 1250-146 Lisboa)

日本人監督の上映作品：

- ・「ヒメアノ〜ル (HIME-ANOLE)」(吉田恵輔監督)
9月6日(火) 22:00～ Sala 3
9月10日(土) 00:00(深夜12:00)～ Teatro Tivoli BBVA
- ・「残穢ー住んではいけない部屋ー (THE INERASABLE)」(中村義洋監督)
9月7日(水) 14:00～ Sala Manuel de Oliveira
- ・「暗殺教室2 (ASSASSINATION CLASSROOM 2)」(羽住英一郎監督)
9月9日(金) 19:00～ Teatro Tivoli BBVA
- ・「クリーピー偽りの隣人 (CREEPY)」(黒沢清監督)
9月9日(金) 00:00(深夜12:00)～ Teatro Tivoli BBVA
- ・「貞子 vs 伽椰子 (SADAKO vs KAYAKO)」(白石晃士監督)
9月10日(土) 00:15(深夜12:15)～ Sala Manuel de Oliveira
9月11日(日) 15:00～ Teatro Tivoli BBVA

お問い合わせ：info@motelx.org

プログラム：<http://www.motelx.org/programa-e-horarios#dia-2016-09-09/todos-os-locais>

URL：<http://www.motelx.org/>



(2) さげもんワークショップ

福岡県柳川市に伝わる吊るし飾り「さげもん」のワークショップが、以下のとおり開催されます。「さげもん」は、雛祭りの折、鶴やウサギ、宝袋などの縁起物と柳川まりの細工を組み合わせる風習です。参加は要事前申込（下記宛て。参加人数30名まで）。その他詳細は下記までお問い合わせ下さい。

日時：10月7日（金） 14：30～16：30

会場：Museu do Oriente

住所：Avenida Brasília, Doca de Alcântara (Norte) 1350-352 Lisboa

お申し込み：<http://www.museudooriente.pt/1510/cursos-e-conferencias.htm>、あるいはTel.：21-3585200

お問い合わせ：cultural@lb.mofa.go.jp / 21 311 0560（日本国大使館広報文化班）

URL：<http://www.museudooriente.pt/>



(3) IberAnime OPO 2016における日本文化紹介

ポルト市にて開催されるアニメ、マンガ、コスプレ、ビデオゲーム他日本のポップカルチャーをテーマとしたイベント「IBERANIME OPO 2016」において、当館もブースを出展し、日本の伝統文化を中心とした文化紹介事業を行います。イベント詳細については、下記をご参照下さい。

日時：10月8日（土）10：30～20：00、 9日（日）10：30～19：00

会場：Alfândega do Porto

住所：Rua Nova da Alfândega 4050-430 Porto

お問い合わせ：info@iberanime.com

URL：<http://www.iberanime.com/>

【報告】

(4) PARALLEL NIPPON — 日本の現代建築展 1996-2006 オープニング

8月4日、オリエント博物館で、「PARALLEL NIPPON — 日本の現代建築展 1996-2006」のオープニングが開催されました。オープニングには、東博史駐ポルトガル日本国大使、ギリエルメ・ヴァス・オリエント財団理事及びマヌエラ・マルティンス・オリエント博物館館長が出席し挨拶を行ないました。本展示会は8月28日まで開催され、期間中、大勢の来場者が安藤忠雄、槇文彦、丹下健三ら日本を代表する現代建築家の1996-2006年における様々な作品の写真・図面・模型を通して、現代日本の卓越したダイナミズムを心ゆくまで鑑賞しました。



【お知らせ】

(5) 「日本語能力試験」の開催

国際交流基金とポルト大学の共催により、以下のとおり「日本語能力試験」(JLPT)が実施されます。詳細については下記URLをご参照下さい。

実施日時：12月4日(日)

実施会場：Faculdade de Letras da Universidade do Porto (ポルト大学文学部)

住所：Via Panorâmica, s/n, 4150-564 Porto

願書提出期間：8月29日(月)～9月9日(金)

問い合わせ先：jlpt@letras.up.pt

URL：https://sigarra.up.pt/flup/pt/web_base.gera_pagina?p_pagina=1021530

(6) 広報文化班からのお知らせ

今後、当館主(共)催による日本関連イベント開催に当たり、大使館便りに加えてEメールによる招待状やイベント情報の送付を希望される方は、cultural@lb.mofa.go.jpまでご連絡下さい。

4. 領事関係

(1) 在留届に関するお願い

近年、海外で生活する日本人が急増し、このため海外で事件や事故等思わぬ災害に巻き込まれるケースが増加しています。万一、在留邦人の皆様がこのような事態に遭われた場合には、日本国大使館や総領事館は「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先又は日本国内の連絡先等を確認して援護活動を行っています。

当館でも、皆様に提出いただいた在留届により連絡先の把握を行い、大使館からの海外危険情報や広報文化活動などの情報提供、緊急時の連絡網整備、安否確認に役立てているところです。

このため、ポルトガル国内での転居、日本への帰国、他国への転出等、在留届の届け出事項に変更が生じた後、引き続きこの大使館便りをご覧の方は、速やかにその旨を下記領事班あてに E-mail にてご連絡下さい。

また、皆様の友人・知人で「ポルトガルに居住しているが、まだ在留届を提出していない方」がおられましたら、届出を行うようご案内下さい。

(2) 当館領事業務へのご意見募集

当館では、領事サービスの向上を図るため、皆様からのご意見を募集しています。どのような些細な事柄でも結構ですので、ご意見・ご要望等があれば、お気軽に下記領事班あてに E-mail にてご連絡下さい。

在ポルトガル日本国大使館（領事班）

住所：Avenida da Liberdade 245-6 1269-033 Lisboa

TEL：21-311-0560 FAX：21-354-3975

E-mail：consular@lb.mofa.go.jp